

問題・解答 用紙番号	1
---------------	---

の解答用紙に解答しなさい。

国 語

〈受験学部・学科〉

法学部、国際学部、経済学部、経営学部、現代社会学部、
看護学部、農学部【文系科目型】

問題は100点満点で作成しています。

I 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(五五点)

わたしたちが日常使っている表現のうちには、^I反対の意味を同時に含意している語が思いのほか多い。

たとえば、人称代名詞。

わたしが東京から関西に来て驚いたのは、大阪の人たちが「自分」を「あなた」という意味で用いることであつた。「ジブン、騙されてんとちゃう」というのは、「あなたは騙されているのではないか」という意味である。

『仁義なき戦い』で菅原文太が小林旭に向かつて、「のうアキラ、こんなんが村岡の跡目継いだらいいじゃないの」というときの「こんなん」というのは、「こちら」というのが原義であろうが、文脈^①をカンタンするに「あなた」の意らしく思われる。どうして「こちら」が「あなた」になるのかよくわからない。

「手前」というのもそうだ。「てまえ」と読めば一人称、「てめえ」と読むと二人称になる。リバーシブルだ。

「あなた」にしても、本来は「彼方」の意であるはずだから、目の前にいる人の呼称としてそれほど適切とも思われない。

考えるとどれも納得のいかない話である。だが、べつにこれはわたしだけがひとりこだわっていることではなく、日常生活における「変なこと」にたいへんこだわりのあつたフロイト博士も、この点に着目されて、例のごとき洞見を語られている。

多くの言語学者たちは、最も古い言葉では強い－弱い、明るい－暗い、大きい－小さいというような対立は、同じ語根によって表現されていたと主張しています（『原始言語の反対の意味』）。たとえば、エジプト語の **ken** は、もともと「強い」と「弱い」という二つの意味をもっていました。対話の際、このように相反する二つの意味を合わせもつ言葉を用いる時には、誤解を防ぐために、言葉の調子と身振りを加えました。また文書では、いわゆる限定詞といって、それ自体は発音しないことになっている絵を書きそえたのです。すなわち、「強い」という意味の **ken** の時は、文字のあとに直立している男の絵を、「弱い」という意味の **ken** の時は力なくかがみこんでいる男の絵を書きそえたのです。同音の原始語をわずかに変化させて、その語に含まれた相反する二つの意味をそれぞれにあらわす表記ができたのは、後代になってからのことです。

古代エジプト人は **ken** という発音を微妙にピッチや身振りを変えることで、「強い」という意味と「弱い」という意味に使い分けていたわけである。ずいぶんと七面倒なことをしたものだが、これはべつに古代エジプトだけに限った話ではなく、同じ現象は、じつは古今東西、言語のあるところではどこでも観察されるのである。

フロイトは同種の事例をいくつか^② レッキョしている。ラテン語の **altus** は「高い」と「低い」の二つの意味があり、**sacer** には「神聖な」と「呪われた」の二つの意味がある。英語の **with** は「それとともに」と「それなしに」の両方の意味をもっていたが、今日では前の意味でのみ用いられている（**withdraw** 「取り去る」や **withhold** 「与えない」という動詞には「それなしに」という古義の名残りがとどまっている）。

もちろん日本語にも同じ現象は存在する。

だいぶ前に見たテレビドラマで、主人公の少年（前田耕隆）が好きな少女（中山美穂）に向かって「オレのこと好き？」と訊ねる場面があった。中山美穂が「うん、好きよ」と答えると、前田くんはその答えに納得せず、こう言った。「その『好き』じゃなくて！」

なるほど、とわたしは深く得心した。

「好き」というような、誤解の余地のありそうもないことばでさえ、言い方ひとつで、「異性として好き」という意味と、「異性として好きなわけではない」というまったく反対の意味をとることができる。しかるに、今のケースでは、少女の答えた「好き」が「人間としては好きだけど、異性としては興味がない」という意味であることを、少年はどうやって瞬時のうちに識別したのであるうか？

これはみなさんが自身の経験に照らして考えればすぐわかるはずである。

前田くんが中山さんの「好き」を「異性として興味がない」という意味であると一瞬のうちに判

別できたのは、「好き？」という問いかけと「うん、好き」という答へのあいだの「間」が有意に短かったからである。

「オレのこと好き？」という問いに対して、「友達としては好きだけど、男として見たことないから」という場合には「うん、好きよ」。「異性として好き」という場合には「……うん、好きよ」と。こちらの場合は、「……」というわずかコンマ何秒の「あ」が入る。つまり、わたしたちは、問いかけに対する回答のわずかな遅速の差によって、それがエロティックな言明か非エロ的な言明であるかを識別しているのである。

ずいぶん面倒なことをするものである。

どうして、人間は「異性として好き」（「好き①」）と、「人間としては好きだが、異性としては興味がない」（「好き②」）に別の動詞を割り振ることをせずに、対立する意味を同一語のうちにとどめるに任せたのであろう？ 新語があふれるほどに説明されているのに、どうして「好き」のような、語義解釈の間違いがときに「い」に深刻な帰結をもたらす語についてだけは新語の創造をどなたも提言されないのか？

ここにはどうやら人間存在の根本にかかわる重要な問いがひそんでいるように思われる。わたしはこの問いを次のように定式化してみたいと思う。

人間はどうして、わざわざ話を複雑にするのか？

ある人が仕事の途中で早退した。翌朝、同僚が出社してきたその人に訊ねた。

「昨日、なんで帰ったの？」

「電車で」

II

これはコミュニケーション不調のかなり深刻な事例である。

たしかに、「どうして帰ったの？」という問いが「帰宅の手段」にかかわる問いであるのか、「帰宅の理由」にかかわる問いであるのかは、さしあたりこの一問一答だけから判断することはできない。しかし、わたしたちは日常会話においては、このような判断をわけなくクリアしている。

どうして、わたしたちが誤答をまぬかれているのかというと、「昨日、どうして帰ったの？」という問いかけに対して、わたしたちはつねに「この人は『こう訊くことによって何を訊きたいのか？』という「問いについての問い」を返答に先だつて自分に向けているからである。だからもし、このとき、たまたま職場の人びとが「帰宅の手段としてはどのような交通手段が適切であるか」というような議論を交わしている最中であつたとすれば、「電車で」が期待された正解のひとつである可能性も^③ハイジヨできない。

このような問いについてはいかなる回答が最適であるかの一般解は存在しない。だから、わたしたちはその問いが「何を訊いているのか」をそのつど文脈から推理しなければならない。

「あなたはそう訊くことで何を訊きたいのか?」「あなたはそう言うことによつて何を言いたいのか?」「あなたはそうすることによつて何をしたいのか?」といった種類の問いをコミュニケーション理論では「メタ・メッセージ」(上位メッセージ)と呼ぶ。

メタ・メッセージとは、メッセージの解説の仕方にかかわるメッセージのことである。

たとえば、「オレは嘘つきだよ」というメッセージがある(「嘘つきのクレタ島人のパラドクス」だ)。このメッセージはどう読むべきだろうか?

この男がことば通りの嘘つきなら、「オレは嘘つきだ」という言明も嘘のはずだから、「嘘つきではない」ということになり、これは当の言明と矛盾する。逆に、この男の言うことがほんとうで、いつも嘘ばかりついているとしたら、この言明に限つては嘘をついていないことになって、これも当の言明と矛盾する。さて、この男は嘘つきなのか正直者なのか?

べつに悩む必要はない。

「オレは嘘つきだよ」と言われたら、わたしたちはふつう「X」と判断する。

それで正解なのである。

「オレは嘘つきだ」は、この人が発信するメッセージの解説の仕方にかかわるメッセージ、すなわちメタ・メッセージである。だから、かれが発信する通常のメッセージ(それは嘘ばかりである)よりも一ランク上位にあり、メタ・メッセージが通常の(嘘の)メッセージによつてその読み方を規定されることはありえないのである。

わたしたちはふだんコミュニケーションの現場で、「メッセージのやりとり」と同時に、メッセージの解説の仕方についての「メタ・メッセージのやりとり」をおこなっている。

メッセージとメタ・メッセージの関係はいわば「暗号電報」と「暗号解説表」の関係に類比的である。暗号解説表を照合しながらでなければ暗号が解説不能であるように、コミュニケーションの場においては、メタ・メッセージについてコミュニケーション当事者間の合意が成立しないかぎり、いかなるコミュニケーションも成立しない。

このようなメタ・コミュニケーションをわたしたちはふだんほとんど無意識におこなっている。けれども、「あなたはどういうふうにメタ・メッセージを聴き取っているのか?」と正面切つて問われると答に窮してしまふ。メタ・メッセージの聴き取りがあまりに自然なので、わたしたちは「どうやってそれを聴き取っているのか」をあらためて反省したりしないからである。

メタ・コミュニケーションの不調が精神分裂病(統合失調症)の原因になるというⁱⁱⁱ「ダブル・バインド(二重拘束)」理論は一九五〇年代にグレゴリー・ベイトソンによつてアイシヨウされた。

ダブル・バインドとは、家族関係（おもに母子関係）を通じて、子どもがメタ・メッセージを適切に読み取ることを組織的に妨害される状況を意味する。

ベイトソンは、口では息子に向かって「愛している」と言いながら、息子が抱いてもらおうと思つて近づくと身をかわす母親のケースを典型的な事例として挙げている。

メタ・メッセージはおもに非言語的なレベル（音調、目配せ、ジェスチャー、表情などなど）で発信されて、メッセージの適切な解読の仕方を指示する。このケースでも、母親は非言語的なレベルでは、身を引くような態度というメタ・メッセージを示している。母親が発信するメタ・メッセージ（「わたしが示すすべてのシグナルは『おまえを愛していない』を意味する」）は、言語的レベルで語られる「おまえを愛している」を否定する。ふつうのコミュニケーション能力を備えた人間であれば、メタ・メッセージに準拠して、母親の口にする「おまえを愛している」ということばを、ただの擬態として読解することができる。

しかし、母親自身が、「自分は息子を愛していない」という事実を認めようとしなないことが事態をややこしくする。自分を愛情深い母親であると信じ込みたい母親は、彼女の愛情表現が口先だけの擬態であると息子が見破ることを許さない。母親は口先だけの「愛しているよ」ということばを、非言語的レベルで彼女が発信している「おまえなんか愛していない」というメッセージを否定するメタ・メッセージとして読むことを息子に要求する。

彼女は Y ののである。

息子は窮状に追い込まれる。彼は（自分を愛しているようにはぜんぜん感じられない）母の身振りを「自分を愛していることの徴候」として解釈しなければならない。この解釈を受け入れるためには、「母は自分を愛しているようにはぜんぜん感じられない」という彼自身の「感じ」を否定するほかない。「『母親は私を愛していない』と感ずる私の感受性は現実を正しく受け止めていない」「私のメッセージ解釈能力はまったく適切に機能していない」と自分に言い聞かせない限り、この読み替えは成功しない。

これは、自分を欺いている母親を支持するために、子供が自分自身の内面真理についてみずからを欺かねばならない、ということの意味している。母親とうまくやつていくためには、他人のメッセージばかりか、子供は自分自身の内面のメッセージについても誤った識別しか許されないのである。

こうして、この息子は出口のない状況にはまり込む。

彼が「母は私を愛している」という擬態を真に受ける自己欺瞞にとりあえず成功したとしても、そう信じて母親に近づくと、やはり母親は冷ややかに身を引く。母親のこの拒否のシグナルに反応

して彼がたじろぐと、母親は「なぜ私がこんなに愛しているのに、おまえはその愛を受け入れられないのか」と彼を叱責する。

子どもは母親に近づいても、遠ざかっても、どちらにしても叱責される。「子供は母親の表現していることを正確に識別したことにより罰せられ、かつまた不正確に識別したことにより罰せられる」。

これが典型的なダブル・バインド状況である。このような状態に継続的に置かれると、子どもはメタ・メッセージとメッセージのレベルを識別する能力を致命的なかたちで損なわれる。

その結果、相手が本当に言いたいのは何なのかを決定することにも、自分が本当に言いたいことを表現することにも——両方とも正常な人間関係に欠かせないことである——習熟しないまま成長するのである。

そのような人間は、自分が今どういう種類のコミュニケーションを前にしているのかを識別することができない。「今日は何をする気?」という問いを差し向けられても、「昨日自分がやったことで責められているのか、性的な誘いを受けているのか、それとも単に字義通りのことが言われているのかについて、正確な判断を下すことができない」。

正確な判断ができない人間はいくつかの典型的な反応を示す。

どのレベルの問いかけに反応したのかわからせないように、あいまいな答え方をしてリスクを避ける。あらゆるメッセージに「裏の意味」があることを疑い、身の回りの偶発的な出来事の「隠された意味」を探してやまない。メッセージのレベル差を無視して、すべて字義通りに受け止め、結果的にいかなるメッセージにも重要性を認めない。外界からのメッセージをすべて^⑤ジャダンして、黙り込む……これらはいずれも精神病的コミュニケーションの徴候に一致する。共通しているのは「他人が何を言わんとしているかを発見するのに助けとなる選択肢だけは、どうしても選り取れないということである」。

ベイトソンのダブル・バインド理論を粗述してきたのは、^{IV}人間が対立的・両価的な語義をあわせてもつ語を聞き分けることを強いられるのはなぜかという先ほどの問いに対して、これが答えの一部になっていると思うからである。

それは、コミュニケーションにおいては、言語的なメッセージをやりとりすることより、ごくわずかな徴候的差異に着目して、メッセージの解読レベルを読み出す能力のほうが、生存戦略上優先する、ということである。

kenが「大きい」と「小さい」を同時に含意し、「好き」という言明が「好き」と「それほど好きではない」を同時に含意するように人間たちが言語をつくりあげたということは、わたしたちが

優先的に習得すべきコミュニケーション能力は、そのつど最適な一義的な記号を使い分けることではなく、同じ名で呼ばれるもののうちにレベルの違いを読み分けることだということをおそらくは意味している。

そのつど最適な一義的記号を使い分けることがそれほど重要であれば、「大きい」と「小さい」を同じ語であらわすような不合理なことをしたはずがない。人類が言語を手にしてから数十万年にわたって、あえてこの「不合理」なふるまいをやめずにきたのはなぜか。それは、同一レベル上での頂間差異を検出する能力よりも、同一項に含まれるレベル差を検出する能力のほうが、人間が生きていくうえでより有用だからだ。そう私は解釈する。

(内田樹『死と身体』一部改変)

問一 波線部①～⑤と同じ漢字を含むものを、次のア～オのうちからそれぞれ一つ選びなさい。

① カンアン

- ア 宝石の**カン**テイをする
- イ **カン**レイにしたがってお祝いをする
- ウ 不審人物の行動を**カン**シする
- エ 待ち時間を**カン**ジヨウに入れる
- オ 海底トンネルが**カン**ツウした

② レツキヨ

- ア 施設の**レツ**キヨカを求める
- イ **レツ**キヨシな気持ちで試験に臨む
- ウ 複雑な思いが胸に**レツ**キヨライする
- エ **レツ**キヨビルで火事が起きる
- オ 容疑者を**レツ**キヨする

③ ハイジヨ

- ア 不公平な関税を**ハイ**ジヨする
- イ ゴミの**ハイ**シユツ量を減らす努力
- ウ スポーツは優勝**ハイ**ジヨの世界だ
- エ 婚約者に対する重大な**ハイ**シヨをおかす
- オ **ハイ**ジヨながら店長を務めております

④ テイシヨウ

- ア 在庫の有無を**テイ**シヨウカイする
- イ 父親の事業を**テイ**シヨウする
- ウ 裁判で証人を**テイ**シヨウカンする
- エ 音頭が続いて皆が**テイ**シヨウワする
- オ **テイ**シヨウジヨウを和らげる薬を飲む

⑤ シヤダン

- ア 古文書にみられる**シヤ**を訂正する
- イ **シヤ**ンによつて減刑をする
- ウ 光が水面に**シヤ**する
- エ 必要な情報を**シヤ**する
- オ **シヤ**ンのためにボードを設置する

問一 空欄 ・ に入る最も適切な言葉を、次のア～オのうちからそれぞれ選びなさい。

- | | | | | | |
|---|---|------|---|---|-----|
| あ | ア | 気まずさ | い | ア | 壊滅的 |
| | イ | おどろき | | イ | 逆説的 |
| | ウ | ためらい | | ウ | 死活的 |
| | エ | 気がね | | エ | 短絡的 |
| オ | | 先送り | オ | | 典型的 |

問二 傍線部「反対の意味を同時に含意している語」について述べた次のア～オのうちから、最も適切なものを選びなさい。

- ア 人称名詞として使われる言葉が、場合によって一人称を意味したり、二人称を意味したりするのは関西だけである。
- イ 最も古い言葉の一つである古代エジプト語では、当初から同音の原始語をわずかに変化させて相反する二つの意味をあらわしていた。
- ウ 対話の際に相反する意味をあわせ持つ言葉を使う時には、誤解を防ぐために、言葉の調子と身振りを加える必要がある。
- エ 「好き」という言葉は、相手に対して好意を持っているという意味を持つが、異性として好きという意味と異性として興味がないという反対の意味を持つこともある。
- オ 対立する意味が同一の言葉のうちにとどめられているということは、今日、人間関係が複雑化していることと関係している。

- 問四 傍線部Ⅱ「これはコミュニケーション不調のかなり深刻な事例である」とあるが、どうしてこの事例は深刻であると言えるのか。次のア～オのうちから、最も適切なものを選びなさい。
- ア メッセージが問うていることに対して、あらかじめどのような答えが最適であるのかを推理することは困難であるから。
- イ メッセージの問いかけに対する答えには、メタ・メッセージの解読が前提となるが、日常的には難なくクリアできる解読ができていないから。
- ウ メッセージが「そう訊くことで何を訊きたいのか？」というメタ・メッセージの問いかけについては一般解が存在しないから。
- エ メッセージとメタ・メッセージの関係は、暗号電報と暗号解読表の関係に類比的であるが、暗号電報を暗号解読表を照合しながら解読することは困難であるから。
- オ メタ・メッセージのやりとりについて、どうやって聴き取っているのかと正面切って問われれば、答えに窮してしまうから。

問五 空欄 X に入る最も適切なことばを、次のア～エのうちから選びなさい。

- ア でも、この人は本当のところ嘘を言っているのかどうか分からない
- イ でも、このひとの言うことは矛盾しているので、言葉通りにとることはできない
- ウ じゃあ、これからあまりこの人の言うことは信用しないようにしておこう
- エ じゃあ、この人は他のことでは嘘を言っていない正直な人なのだ

問六 傍線部Ⅲ「ダブル・バインド (二重拘束)」について述べた次のア～オのうちから、適切でないものを一つ選びなさい。

- ア 精神病的なコミュニケーションの徴候を示す人間は、メタ・メッセージの解読がうまくできないという共通性を示す。
- イ ダブル・バインドとは、母親の口にするメッセージと非言語的なメタ・メッセージの間に矛盾が生じることである。
- ウ ダブル・バインドにおいて、息子は母親の非言語的な拒否のシグナルを正しく識別しても、それを誤っても母親から叱責を受ける。
- エ 「自分は息子を愛していない」ということを認めようとしないう母親の態度が、事態を深刻化する。
- オ 息子は、自分が母親の態度から受ける「愛されていない」という感じが正しくないと、自分に言い聞かせることを迫られる。

問七 空欄 に入る最も適切なことばを、次のア～エのうちから選びなさい。

- ア メッセージとメタ・メッセージを混同している
- イ メッセージとメタ・メッセージの関係を断ち切る
- ウ メッセージをメタ・メッセージによって否定する
- エ メッセージとメタ・メッセージをすり替えようとする

問八 傍線部Ⅳ「人間が対立的・両価的な語義をあわせもつ語を聞き分けることを強いられるのはなぜか」という問いに対して、ダブル・バインド理論はどう答えるのか。次のア～オのうちから、最も適切なものを選びなさい。

- ア ダブル・バインド状況におかれた息子がメッセージとメタ・メッセージの間の矛盾を解決しなければならないように、人間は対立的・両価的な語義をうまく理解するように求められる。
- イ 相手が本当に言いたいことは何かを理解することの重要性に比べて、言葉が一義的であることは重要度が低いと言える。
- ウ 「大きい」と「小さい」を同じ語で表すような不合理な事態は、ダブル・バインド状況におかれた人間が、メッセージの「隠された意味」を探すようになることと同じく不合理である。
- エ 同じメッセージがメタ・レベルでは異なる意味を持つことがあるので、対立的・両価的な語義を持つ言葉を理解することは大きな障害とはならない。
- オ 人間の言葉が数十万年にわたって不合理であっても、言葉を聞き分けることは、生きていく上で有用性を持っている。

II

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(四五点)

A

一九七〇年代後半にアニメ雑誌の創刊が相次いだ主たる要因は、七四年十月に放送が始まった『宇宙戦艦ヤマト』(一九七四―七五年)の打ち切りと復活だった。

『宇宙戦艦ヤマト』は物語内容の深さ、キャラクター造形とメカニクスなどの各種設定の充実が、十代後半から二十代前半の視聴者の関心を引き付けた。しかし放送当時、若者層からの支持は視聴率に直接表れなかったため、全三十九話の予定が二十六話で打ち切りになった。この事態に悲憤し立ち上がったのが若者のファンである。

中谷達也と柳野麻美が中心になってファンクラブが結成されると、会員数は爆発的に増え、同人誌の発行も盛んになった。ビデオが存在しなかった当時、ファンは『宇宙戦艦ヤマト』をもう一度見たいとテレビ局に嘆願書を送り、再放送を見事実現させた。さらに彼らは同作プロデューサーの西崎義展らと連携し、ファン活動を展開した。西崎は『海のトリトン』のプロデューサーを務めた経験から、ファンが作品に注ぐ力の大きさをすでに認識していたと思われる。

その結果、打ち切りから二年後の一九七七年八月には劇場版『宇宙戦艦ヤマト』が公開され、興行史に残る成功を記録した。劇場版『宇宙戦艦ヤマト』の成功は、購買力だけでなく行動力を備えた若者アニメファンがいることを明らかにし、また、若者たちにとってアニメが真剣に対峙する価値がある表現ジャンルであることを証明した。以降、アニメは十代後半から二十代前半の若者が楽しむサブカルチャーの一翼を担うことになるのだが、この頃と時期を同じくして、彼らを読者に想定したアニメ雑誌が創刊されることになった。

自身も「アニメージュ」の編集者だった大塚英志は、創刊時に編集者を務めていた鈴木敏夫(現在はスタジオジブリのプロデューサーである)にインタビューをおこない、当時の編集部の変遷に関する詳細な記録を『二階の住人とその時代』として上梓している。同書には、アニメというサブカルチャーに夢中になる若者と、アニメとその隣接メディアを若者向けの娯楽産業に育て上げようとする大人との α が生々しくつづられている。なかでも注目すべき点は、編集部が潜在的な読者として想定した十代後半のアニメファンの意見を創刊準備の過程で聴取し、積極的に編集方針に取り入れていったことである。

大塚によるインタビューで、鈴木は次のように語っている。鈴木が発言は、アニメファンが声優をどのように捉え、また編集部が彼らファンの欲望をどのように β したのかを教えてください。少し長くなるが引用しよう。

——それでアニメーションというものがみんな、なぜ好きなのかというのを僕は何もわからなかったわけですよ。ところがその日、三人(女子高校生のアニメファンであり、そのうちの

一人は『レインボー戦隊ロビン』のフアン(浪花愛だった…引用者注)から話を聞いてわかったのは、キャラクターが好きであると。しかもヒロインとヒーロー。だけど、絵でかいた人たちだから、結局彼女たちが興味を持ったのは、それをかいている人、演出する人だということ学ばんですよ。僕がそのとき、頭の中に思っていたことは、そうか、要するにその前だったら『平凡』とか『明星』があつて、いろんなスターがいたけれど、それは生身の人間だからその人に会いに行けばいい。ところが絵でかいた、いわゆるペーパーヒロイン、ペーパーヒーローだから、それをつくった人、それしかないのかと。それを学ばんですよ。

で、この本をつくる時に、ある種のキャラクターマガジンにしなきゃだめだと思ったんだよね。ただ、それに携わった人に、かわりにいろんなコメントをもらおうと。

もちろん雑誌の主題がアニメのキャラクターである以上、「それをつくった人」には、キャラクターの ア 側面、つまりは声の担い手である声優も含まれていた。その結果、声優自身にも脚光が当たることになった。

「アニメージュ」創刊号の表紙には銅版画風に描かれた宇宙戦艦ヤマトをあしらい、以下の見出しを記している。

緊急取材報告第1弾!! 『さらば宇宙戦艦ヤマト 愛の戦士たち』

大特集●キャプテンハーロック 『はてしなき男の旅路』

完全データ●6月のテレビアニメ総ガイド

アンコールアニメ●太陽の王子「ホルスの大冒険」

連載漫画●聖悠紀

声優訪問●神谷明

当時公開を控えていた劇場版『さらば宇宙戦艦ヤマト—愛の戦士たち』(一九七八年)を全面に押し出した表紙だが、そこに声優の神谷明の名が登場しているのを見逃すことはできない。

神谷明は、一九七〇年十月にフジテレビの『英語を話そう』への出演を契機に俳優としてデビューしたのち、同年テレビアニメ『魔法のマコちゃん』(一九七〇—七一年)の少年役を演じ、声優としての経歴をスタートさせた。それ以降、『バビル2世』(一九七三年)、『ゲッターロボ』(一九七四—七五年)、『勇者ライディーン』(一九七五—七六年)などで主役を演じ、アニメの声優として人気を博した。また、『宇宙戦艦ヤマト』と劇場版『宇宙戦艦ヤマト』の加藤三郎役でも注目され、人気と実力を兼ね備えた声優として認められていた。

本文では記事に「声優24時」というタイトルをつけ、四ページにわたって神谷について述べてい

る。この記事の最初のページ中央には、神谷の顔をクローズアップで大きく配し、「声優24時」「やさしさをマイクにこめて」という文言を添えている。写真の下には「神谷明 昭和二十二年九月一八日生まれ」と記し、マイクの前で演技する写真を二枚配している。二ページ目以降は、出勤から仕事を終了するまでの神谷の行動——声優である妻の戸部光代との出勤風景、喫茶店での仲間との芝居の打ち合わせ、稽古場での練習、NHKのスタジオでの打ち合わせ、見学の女性ファンたちとの握手、別のスタジオに移動しての番組収録——を一連の写真によって提示している。と同時に、神谷の半生と彼が芝居の世界に入った経緯についても述べている。^B興味深いことに、バビロ二世をはじめ神谷が演じた人気キャラクターは名を記しているだけで、キャラクターの図像は一切掲載していない。記事の主演はあくまでも神谷明であり、彼がどのような人物なのかを述べることに傾注している。

同記事は、声優の素顔を読者に提示し、その人となり注目する最初期の記事の一つとして特筆に値する。現在、声優がアニメ雑誌のグラビアを飾り、彼ら自身の情報を読者に提供するの、ごく当たり前のことになっている。例えば、一九九四年に創刊された「アニメージュ」の姉妹誌である声優専門誌「ボイスアニメージュ」（徳間書店）は、創刊以来声優たちが表紙を飾り、グラビア写真、インタビュー、声優本人が執筆するコラムなどで誌面を構成している。しかし、七〇年代末にアニメ雑誌が登場するまで、事情は異なっていた。もちろん、声優ファンクラブの会報誌は声優の情報を掲載していたのだが、一般商業誌で声優本人が作品やキャラクターを差し置いて主演になることは、それまでにはほぼなかったのである。アトム役の清水マリのエピソードが示すとおり、視聴者である子どもたちがキャラクターと物語に寄せる信頼を裏切らないよう、声優の姿が隠されることさえあった。それとは対照的に、「アニメージュ」は読者／視聴者の声優への関心に積極的に応え、声優を表の存在にした。

当時、「アニメージュ」が果たした役割は、配信などによっていつでもアニメ本編が視聴可能な現在とは比較できないほど大きい。なぜなら、一九七〇年代末、テレビアニメの視聴ができるのは放送時と再放送時に限られていたため、アニメ雑誌は、本編の音声を収録したレコードや視聴者が放送を録音したカセットテープ（この習慣は現在では完全に廃れているが、家庭用ビデオデッキが普及する一九八〇年代半ばまで、アニメ視聴者が放送を録音することは珍しくなかった。また、作品本編からのカットをあしらったカセットレールがアニメ雑誌の定番付録だった）と並んで、読者／視聴者と作品世界を、そして声優とをつなぐメディアとして機能したからである。

創刊から約一年半後、「アニメージュ」一九八〇年二月号は、一九七九年から八〇年のアニメ界を総括するために、「八千九百五十七人」のファンが投票に参加したランキングを掲載した。十一部門からなるこのランキングのなかでもっとも注目したいのは、「^CE声優（女）NO.1」である。同部門の栄えある一位には、少年役も得意とする小原乃梨子が輝いた。記事は小原の受賞理由を次の

ように記している。

未来少年コナン、野比のび太、ワンサくん、海底少年マリン、リー・カザリン、ミーム、マチヤ、ベラミス、ペーター、リューズ、マトシヨ、ドロシヨ、ムジヨ……。

数多くの人気キャラクターを演じつづけてきたベテランの小原乃梨子が、八九五七票中なんと二四四二票も獲得して、女優人気ナンバーワンに輝いた。今回の声優部門、男女合わせてもっとも高い投票率である。

もちろん、彼女の人気は演じたキャラクターの人気だけではない。小原の持つ人間的なあたたかさ、そしてやさしさがナンバーワンの理由なのだろう。

同記事は、小原に投票した読者の意見も多数紹介している。十六歳のある読者は「コナンの声がかつた。少年の声にぴったりの人だから」と述べている。この記事は小原の顔写真を掲載していて、女性の小原が少年キャラクターを演じていることはすでに周知の事実だった。そのうえで、この読者は小原の声が少年にふさわしいと述べているのである。別の十六歳の読者は、「小原さんのやさしさが大好きです。なんか、おかあさんみたいな感じがして、あたたかみを感じます」と述べた。この読者は声優自身の声を認識するだけでなく、声優本人の人格を想起している。つまりこの読者にとって、小原は彼女が演じてきたキャラクターたち以上の存在感をもっていたことがわかる。このように、読者投票によるランキングは、声優についての読者の見解と、声優の声の聴取経験についての意見が表明される場であった。

もちろん、^D聴取者が姿の見えない身体が発する声に人格を読み取ることは、なにもアニメに限ったことではない。メディア研究者の福永健一は、一九二〇年代のアメリカのラジオ放送では、聴取者がラジオから聞こえる声に個性や人格の隠喩、すなわち「パーソナリティ」を読み取る態度が定着していたことを指摘している。同様の聴取が声優の声に関しても生じていると推測できるのだが、声優のパーソナリティが受容者の内部に構築される過程は、ラジオの場合よりも複雑である。それについての証言を一つみてみよう。

「アニメージュ」一九七九年七月号の座談会記事「声優ファンクラブ会長座談会 FC会長は声優さんのことを心底考えなければできない仕事!!」には、声優ファンクラブの会長たちが参加して、それぞれのファンクラブ設立の経緯やファンクラブの仕事について語っている。同座談会に参加した小原乃梨子ファンクラブ会長の宮田知子は、小原のファンになった過程について、「むかし『ハリスの旋風』の『メガネくん』やら『海底少年マリン』が好きで『ワア、だれが声をやってるのかな?』と興味をもちまして……」「そのうち『アルプスの少女ハイジ』が始まってペーターが登場した。それで、完全に小原さんファンになりました」と述べている。

最初、視聴者は声優の声をキャラクターの声として聞く。その後、キャラクターの声から声優個人への関心が生まれると、物語内の存在であるキャラクターの声は、物語外の存在である声優の声としても聞かれ、キャラクターと声優の双方に焦点を当てる聴取が成立する。そのとき、アニメ雑誌やファンクラブなどで声優個人の情報が開示されると、視聴者はこうした情報を手がかりに声優本人のパーソナリティを作り上げていくのである。

映画学者リチャード・ダイアーによれば、俳優が演じる役柄を超えて一貫した存在、すなわち「スター」として観客に認識されるには彼／彼女のパーソナリティが必要になるが、それは映画本編だけでなく、雑誌や広告などから作り上げられる。同様のことが、一九七〇年代末以降に声優についても起こったと考えられる。アニメ雑誌は声優の人となりについての情報を読者に提供し、読者はそれをもとに彼らのパーソナリティを作り上げてきたのである（神谷明の記事はまさしくその一つである）。声優が「スター」として受容される素地は、アニメ雑誌によって整えられたのだ。

とはいえ、^F声優がスターとして受容される過程については、まだほかにも言及すべきことがある。そもそもスターは、個人の好悪や印象によつてだけ成立するものではない。ある俳優がスターとして存在するには、国や地域、あるいはファン集団といった何らかの共同体で、彼自身／彼女自身のパーソナリティが認知される必要がある。したがって次に考えるべきは、視聴者が聴取する声優の声がアニメ雑誌の読者の共同体のなかで、どのように共有されていったのかである。

声とはなかなか厄介なものである。映画学者のメアリー・アン・ドーンは、^{*}トーカー技術が一九三〇年代の映画受容に与えた影響に着目し、声もまた「観客がスターと同一化するのみならず、スターを識別し、確認するための支持物の役目を果たすのである」と述べ、映画研究が取りこぼしてきたスターの声と観客との関係を強調している。しかしその一方で、映画の音声について数多くの論考を発表してきたミシエル・シオンが「あなたが何かを聞く時、あなたはXという感覚を経験する。しかし、それを正確に言葉にすることはできない」と述べるとおり、自身の聴取経験を他者も理解できるように言語化するのは、簡単なことではない。したがって、個別のかつ主観的な声の聴取が他者と共有されるには、実写映画やドラマの俳優以上に、視聴者それぞれの聴取経験が披露され共有される場と、聴取に関する一定の方向づけが必要になる。

であるならば、「アニメージュ」の人気投票は、スターという立場を声優に与えるうえで必要不可欠なものだったとは考えられまいか。というのもこのランキングは、順位づけというわかりやすい形式で聴取経験を可視化しながら、読者に彼らの聴取経験を公開する場を提供するものだからだ。さらにはランキングに寄せられた意見のなかから、編集部がいくつかの意見を取り上げて、それを編集部の見解として認定している。

再度、編集部が記した小原の受賞理由に注目したい。編集部は「もちろん、彼女の人気は演じたキャラクターの人気だけではない。小原の持つ人間的なあたたかさ、そしてやさしさがナンバーワ

ンの理由なのだろう」と述べている。この記述は、ある読者から寄せられた「やさしさ」「おかあさんみたい」という印象を言い換えながら肯定し、投票結果の総評という形式で、読者共同体に共通見解として流通させている。

「アニメーション」創刊時、編集部が想定していたスターとはキャラクターであった。しかし、読者投票と意見表明という読者の参画と、編集部による読者の意見の方向づけによって、声優は演じるキャラクターとキャラクターの人気を超えて自身のパーソナリティを獲得し、スターとして受容されたのである。また、アニメ雑誌の登場によって、声優は視聴者に自身についての情報を独自に届けられるようになり、演じる個々のキャラクターを超える自身のパーソナリティを構築する機会を得た。結果、声優はキャラクターの音声を担当するスタッフ以上の存在、つまりはスターとして受容されていったのである。それが現在の声優のスター化の出発点である。

一九七〇年代末以降の声優を取り巻くメディア的環境の変化は、少年役を演じる女性声優の受容にも大きな影響を与えた。先に確認したとおり、読者の投票とランキングによって、小原乃梨子は彼女のスター・イメージ（「やさしさ」「おかあさんみたい」）を獲得した。その結果、彼女は演じる個々の少年キャラクターだけに完結しない存在になり、彼女が自身とどれだけ乖離したキャラクターを演じようとも、視聴者は両者の乖離にとらわれて幻滅することはないのである。つまり、女性声優も少年キャラクターの黒子ではなくスターとして、個々のキャラクターを超えて視聴者／ファンに受容されたのである。

（石田美紀『アニメと声優のメディア史』一部改変）

* トーキー技術……映像に音声を同期させる技術のこと。映像と音声同期された映画が商業的に成功を収めるのは一九二〇年代後半のことである。

問一 傍線部 A 「一九七〇年代後半にアニメ雑誌の創刊が相次いだ主たる要因は、七四年十月に放送が始まった『宇宙戦艦ヤマト』（一九七四―七五年）の打ち切りと復活だった」とあるが、アニメ雑誌の創刊と『宇宙戦艦ヤマト』の関係について述べた次のア～オのうちから、最も適切なものを選びなさい。

ア 一九七四年当初から社会的なブームとなった『宇宙戦艦ヤマト』のメカニック設定の充実ぶりが、それを紹介する媒体の設立を後押しした。

イ 途中で打ち切りになった『宇宙戦艦ヤマト』について、未放送分の十三回の話数を制作するよう要求した人びとが多くの人誌を発行した。

ウ 『宇宙戦艦ヤマト』の一部の熱狂的なファン数名と同作のプロデューサーが連携して、他のアニメも積極的に紹介するアニメ雑誌を創刊した。

エ 劇場版『宇宙戦艦ヤマト』の制作発表が知らしめた、購買力だけでなく行動力を備えたアニメファンの多さが、サブカルチャー雑誌の刊行を促した。

オ 劇場版『宇宙戦艦ヤマト』の興行収入は、アニメを真剣に対峙するに足る対象とみなす潜在的なアニメ雑誌の読者を浮き彫りにした。

問二 空欄 α と γ に入る最も適切な言葉を、次のア～エのうちからそれぞれ選びなさい。

- | | | | | | |
|----------|--------|---------|-------|----------|-------|
| α | ア 共犯関係 | β | ア 仮想化 | γ | ア 性格的 |
| | イ 因果関係 | | イ 一元化 | | イ 本質的 |
| | ウ 相関関係 | | ウ 具現化 | | ウ 聴覚的 |
| | エ 利害関係 | | エ 最適化 | | エ 内面的 |

問三 傍線部B「興味深いことに、バビル二世をはじめ神谷が演じた人気キャラクターは名を記しているだけで、キャラクターの図像は一切掲載していない」とあるが、「声優24時」以前のキャラクターと声優の関係はいかなるものであったか。次のア～オのうちから、最も適切なものを選びなさい。

ア 記事にたとえば「やさしさをマイクにこめて」といった副題がつけられ、声優本人による「やさしさ」を感じさせるエピソードが綴られた。

イ 雑誌に声優の演じたキャラクターの情報が掲載されるだけでなく、声優自身が雑誌のグラビアを飾ることも頻繁にあった。

ウ 声優が受けたインタビューが記事となるほか、声優本人がキャラクターに対する思い入れを語るコラムが掲載された。

エ 雑誌の定番付録であったアニメ本編音声を収録したカセットテープは、声優とキャラクターを繋ぐメディアとして機能した。

オ キャラクターと物語に寄せる子どもたちの信頼を損なってしまうまいよう、声優の姿そのものが誌面から隠されることもあった。

問四 傍線部C「E声優(女)NO.1」について述べた次のア～オのうちから、最も適切なものを選びなさい。

ア 「アニメージュ」創刊から約一年半後に掲載された同部門を含むランキングは、それまでのアニメ史を総括する投票企画であった。

イ 同部門一位の小原乃梨子は数々の少年キャラクターに声をあててきたが、それらを演じる声優が女性であることに、読者は驚いた。

ウ 同部門に投票した読者の一部は、小原乃梨子の顔写真や本人の声をふまえたうえで、小原の人となりに思いを馳せていた。

エ 同部門に掲載された読者の意見によると、包容力のある小原乃梨子という声優には、主人公のキャラクターがふさわしいとされた。

オ 同部門を含むランキングは、小原乃梨子という実在する女性以上に、アニメのキャラクターの存在感が強くなる場でもあった。

問五 傍線部D「聴取者が姿の見えない身体が発する声に人格を読み取ること」について述べた次のア～オのうちから、適切なものを二つ選びなさい。

ア 声を発する人物のパーソナリティが、それを聴く者の内部に構築される過程において、ラジオ放送とアニメはほとんど同じである。

イ 宮田知子は、当初特定のアニメのキャラクターに愛着を覚え、そののちにキャラクターを演じている声優本人に関心を持った。

ウ 宮田知子は、声優のパーソナリティが「メガネくん」よりも「ペーター」というキャラクターにマッチしていたから、小原乃梨子のファンになった。

エ 声優ファンはアニメ雑誌やファンクラブ会報が提供する情報を参照し、声優本人のパーソナリティを作り上げる。

オ 物語外の存在である声優への関心が先に立つことで、はじめて物語内の存在であるキャラクターへの愛着は強くなる。

問六 傍線部E「声優がスターとして受容される過程」について述べた次のア～オのうちから、最も適切なものを選びなさい。

ア 異なる複数のキャラクターを演じる声優は、演じる役柄を超えた一貫した存在であるスターとして認識されにくくなる。

イ 実写映画やドラマの俳優と比べると、声優がスターとして受容される際には、個別かつ主観的な声の聴取を共有する場の重要度は低い。

ウ アニメファンの共同体において声優が確固たるスターとして認識されたからこそ、「アニメージュ」のランキング企画は成立した。

エ 「アニメージュ」編集部は読者すべての意見を公平に扱うというよりも、一部の意見を編集部の見解として特別に紹介していった。

オ ある声優がスターとして存在するためには、ファン集団などの共同体において、キャラクターを演じる技術の高さが認知される必要がある。

問七 傍線部F「彼女のスター・イメージ」について述べた次のア～オのうちから、最も適切なものを選びなさい。

ア 小原乃梨子のように「おかあさんみたい」なスター・イメージを獲得することができれば、少年キャラクターの黒子もスターになれる。

イ 「アニメージュ」の編集部は取材をとおして、小原乃梨子本人が自然なあたたかさを持つ魅力的な女性であることを裏づけた。

ウ 小原乃梨子に「やさしさ」を感じる視聴者は、彼女が演じるキャラクターがどれほどやさしくなくとも、声優に落胆することはない。

エ 小原乃梨子のスター・イメージは、彼女自身がアニメ雑誌をとおして発信した自分の情報によって大きく方向付けされた。

オ 小原乃梨子のような少年キャラクターの黒子は、キャラクターの音声面を担当するスタッフとして精進することでスターへの道が開ける。